

1 研究のテーマ

児童が主体的に課題解決に取り組む「おがわ学」の実践
 ～小川町の文化や歴史、産業等についての教科横断的な学習をとおして～

2 研究の仮説

地域を題材とする「おがわ学」の教材である小川町の自然、歴史・文化、産業等について教科横断的に理解を深め、総合的な学習の時間や各教科で関連づけて学習することで、地域活動への参画や地域課題の解決に取り組む課題解決能力を育成できる。

3 研究の基本的な考え方

(1) 授業時数の弾力化

令和4年度、町立小川小学校は、文部科学省より「授業時数特例校」に指定された。この制度は、学校や地域の実態に照らし、より効果的な教育を実施するため、これまでの標準授業時数は確保した上で、教科等の授業時数の配分について一定の弾力化による「特別の教育課程」の編成を認める制度である。

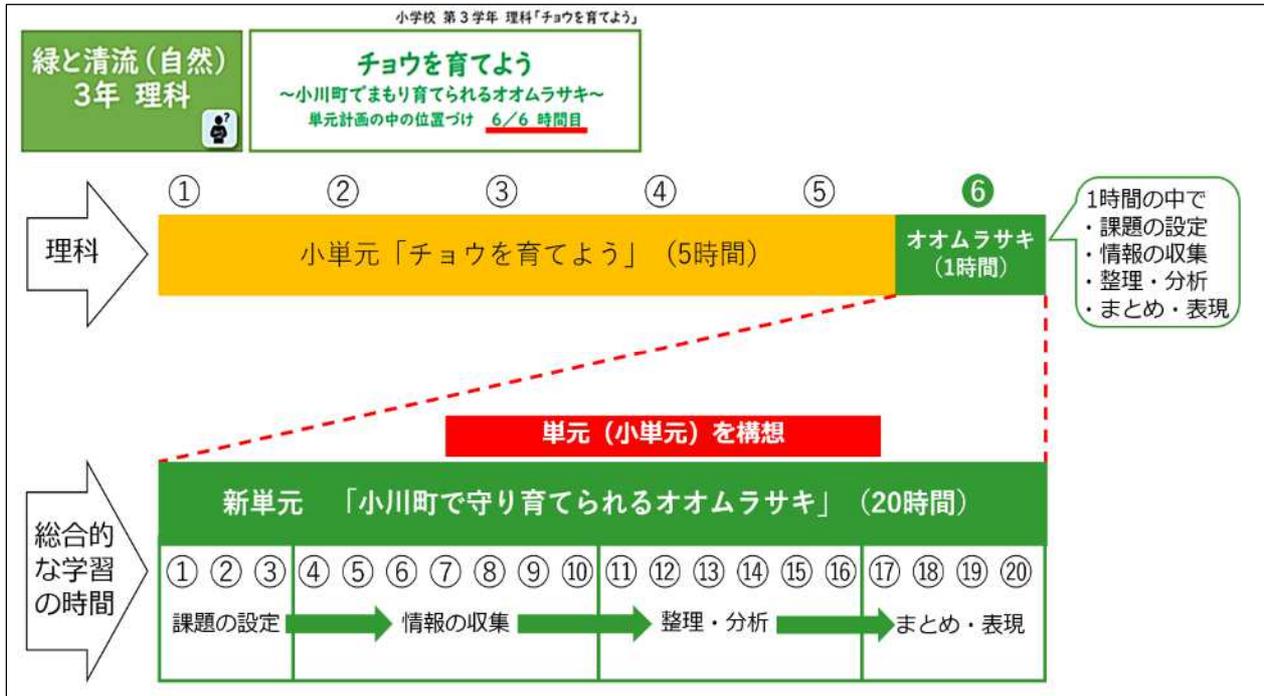
これまで各教科で学習してきた「おがわ学」の時数を総合的な学習の時間の時数に増加し、教科横断的に一体として取り組むことで、主体的・対話的で深い学びの一層の充実を図るとともに、これにより地域との関わりをより自分事として捉え、自分にできることを考える時間を生み出すことができると捉えている。

学年	標準時数 (通常)	増・減	教科等	総時数 (弾力化後)
第1学年	生活 102	授業時数 増	生活 3	生活 105
		授業時数 減	国語 2、音楽 1	
第2学年	生活 105	授業時数 増	生活 7	生活 112
		授業時数 減	国語 6、図工 1	
第3学年	総合 70	授業時数 増	総合 10	総合 80
		授業時数 減	国語 1、社会 7、理科 2	
第4学年	総合 70	授業時数 増	総合 6	総合 76
		授業時数 減	国語 1、社会 2、理科 2、図工 1	
第5学年	総合 70	授業時数 増	総合 8	総合 78
		授業時数 減	社会 3、理科 2、家庭 2、外国語 1	
第6学年	総合 70	授業時数 増	総合 3	総合 73
		授業時数 減	理科 1、家庭 2	

(2) 総合的な学習の時間の単元としての「おがわ学」

これまで教科に位置付けられていた「おがわ学」を総合的な学習の時間に位置付けることで、教科横断的な学習をとおして、児童が主体的に課題解決に取り組むことができる「おがわ学」を実現する。

「総合的な学習の時間に位置付ける」とは、単に総合的な学習の時間の時数としてカウントするというのではなく、教科に位置付けられていた際に1～2時間であった「おがわ学」の学習内容を、総合的な学習の時間の単元（基本的には20時間以上の単元・小単元）として構想していくということである。



↑ 「おがわ学」を総合的な学習の時間に位置付けるイメージ

(3) 生活科における「プレおがわ学」

これまで第3学年以上が対象とされてきた「おがわ学」を、全学年で系統的に進めていくことができるよう、第1、2学年の生活科において「プレおがわ学」を構築する。生活科の授業において、積極的に本町の地域教材を活用することで、第3学年以降の「おがわ学」の土台となることが期待される。

第1、2学年においても、授業時数の弾力化により生活科の時数を増加させ、「プレおがわ学」の充実を図る。

4 研究の手立て

〈手立て1〉教科横断的な指導の工夫

教科等の目標や内容の一部についてこれらを併せて指導を行ったり、関連させて指導を進めたりすることが効果的である場合もある。その際、学習効果を高めるには、「コンテンツ（内容）」の教科横断だけでなく、「コンピテンシー（資質・能力）」の教科横断が重要である。各教科の目標や児童の実態に応じて、コンピテンシーの教科横断を実現するための手立てを講じていく。

〈手立て2〉ゲストティーチャーを活かした指導の工夫

これまでの「おがわ学」では、ゲストティーチャーの活用場面が、教科の単元末に設定されている等、限定的であった。本研究において、「おがわ学」を総合的な学習の時間へ位置付けたことで、探究のプロセスのどこにゲストティーチャーを配置し、どのような指導内容を依頼するかは、授業者裁量によるところが大きくなった。ゲストティーチャーの最も効果的な活用場面を検討し、手立てを講じていく。

〈手立て3〉課題を自分事としてとらえるための地域教材の工夫

おがわ学の目標と総合的な学習の時間の目標を実現するにふさわしい探究課題を設定するためには、課題を自分事として捉えることができる教材が必要不可欠である。「おがわ学」を構築する際にも行ってきたことではあるが、改めて、小川町に存在する多くの地域素材を、学習効果が得られる「地域教材」へと昇華させ、児童が課題を自分事として捉えられるよう手立てを講じていく。

5 研究計画

これまで各教科に位置付けられてきた「おがわ学」を総合的な学習の時間に位置付けるにあたり、年間指導計画や単元計画の変更や修正が必要である。『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』（p66～67）に示されている「総合的な学習の時間の指導計画の作成」を基に、令和4年度から令和6年度にかけて進めていく研究の計画を作成した。総合的な学習の時間の指導計画の作成に際しては、以下の6つについて考える必要がある。

		小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編（P66～67）を参考に作成	研究計画
令和4年度	(1)	総合的な学習の時間を通して、その実現を目指す「目標」。	<input type="checkbox"/> 「おがわ学」で目指す児童像
	(2)	「目標を実現するにふさわしい探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」からなる「内容」。	<input type="checkbox"/> 単元配列表の作成
令和5年度	(3)	「内容」との関わりにおいて実際に児童が行う「学習活動」。これは、実際の指導計画においては、児童にとって意味のある課題の解決や探究的な学習活動のまとめりとしての「単元」、さらにそれらを配列し、組織した「年間指導計画」として示される。	<input type="checkbox"/> テーマの変更・修正 <input type="checkbox"/> 単元配列表の変更・修正 <input type="checkbox"/> 単元計画の変更・修正
	(4)	「学習活動」を適切に実施する際に必要とされる「指導方法」。	<input type="checkbox"/> 学習指導案の検討 <input type="checkbox"/> 研究授業の実施（全学年）
令和6年度	(5)	「学習の評価」。これには、児童の学習状況の評価、教師の学習指導の評価、(1)～(4)、(5)の適切さを吟味する指導計画の評価が含まれる。	<input type="checkbox"/> 評価規準の設定 <input type="checkbox"/> 評価方法の工夫改善
	(6)	(1)～(5)の計画、実施を適切に推進するための「指導体制」	<input type="checkbox"/> 校内組織・校内環境の整備 <input type="checkbox"/> 外部連携の構築

6 主な取組

(1) 「おがわ学」で目指す児童像

令和4年9月1日の校内研修「目指す児童像検討ワークショップ」において、本校全教職員で「おがわ学」で目指す児童像を検討し、決定した。

「小川町が大好きな児童」

- 小川町の文化や歴史、産業等に誇りをもち、もっと知りたいと思う児童
- 小川町に愛着をもち、大切に思う児童
- 自分たちの力で小川町をさらに良くしたいと主体的に考える児童
- 将来、小川町を離れても、小川町の良さを伝えることができる児童
- 小川町の良さを見つけ、自分が住む地域に愛着をもつことができる児童

(4) 「おがわ学」単元デザインシート (例:第5学年)

「おがわ学」単元デザインシートを活用し、探究のプロセスに沿って新たな単元(小単元)をデザインした。単元における「おがわ学で育成する10の力」と「教科横断的な学習によって育成する資質・能力」の関連性や「ゲストティーチャーの効果的な活用場面」などを明確にするために本シートを作成し、活用する。

「おがわ学」単元デザインシート				
第5学年 テーマ「小川町のよいところを伝えよう」				
単元「地産地消をPRしよう」(30時間)				
【学習目標】 地元の食材を調べる活動をとおして、その良さや特徴について理解するとともに、地産地消に関わる生産者の思いや願いを感じることで、地域の食文化を大切にしようとする態度を育てる。				
月	11月	12月	1月	2月
過程	課題の設定(4時間)	情報の収集(10時間)	整理・分析(6時間)	まとめ・表現(10時間)
学習内容	【課題の設定】 ○小川町では、どのような食材が作られているのかをクラスで話し合い、地元食材の魅力について知っていることを情報交換する。 ○地産地消を広めるために知る必要があることを考える。 ○地産地消を広める必要性について考え、何のために地産地消を広めるのか個人の課題をもつ。 ○インタビューを行い、どのくらい地産地消を行っているのか調べる。 ○小川町の地産地消についてよく知る人から話を聞き、地産地消の現状、農家(町)の人の思いや願いなどについて知る。 GT活用 ・地元の魅力を発信している方	【情報の収集】 ○地産地消を広めるために、どのような方法で地域の方へ発信するか考える。(GTへ質問) ○GTから地産地消のためにどんな工夫をしているか聞く。自分たちの考えについてのアドバイスを受ける。 GT活用 ・農家の方 ・地元食材を活用しているお店の方 ・地元の魅力を発信している方 ○調査計画を立て、情報を収集する。	【整理・分析】 ○GTの話やアドバイス、自分たちで収集した情報についての問題点や改善点を話し合う。 ○足りない情報について調査したり、インタビューしたりして、よりよい発信方法を考える。	【まとめ・表現】 ○整理・分析した情報を基に考えた発信方法(ポスター、動画、メニュー開発など)に必要な物を作成する。 ○作成したものを家庭や地域に配付したり、お店などに持って行ったりすることで、発信する。 ○これまでの学習を振り返り、成果と課題について話し合う。 ○授業を始める前と今の自分を比較し、考えが変わったり、成長したりしたことをまとめる。 ○これからのこともできることはないか考え、話し合う。
GT	○	○		
おがわ学	【傾聴力】 他者の話を聞き、相手が伝えたい要点を捉えることができる。 社会「わたしたちの生活と食糧生産」 我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解することができる。【知・技】	【分析力】 資料等から集めた情報について、視点を決めて分類することができる。 社会「わたしたちの生活と食糧生産」 食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解することができる。【知・技】	【判断力】 目的や条件に応じた情報を取捨選択することができる。 社会「情報産業とわたしたちの暮らし」 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することができる。【思・判・表】	【協働力】 身近な人々と考えや思いを共有し、協力しながら取り組むことができる。 社会「わたしたちの生活と食糧生産」 「情報産業とわたしたちの暮らし」 食糧生産や情報産業について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしている。【能】
教科横断(社会3)				

(5) 「おがわ学」掲示 (例:第3学年)

児童が主体的に課題解決に取り組む「おがわ学」の実践
 ～小川町の文化や歴史、産業等についての教科横断的な学習を通して～

3年生 総合

大豆はかせになろう

ゲストティーチャー
 三代目清水屋 清水さん

① おがわ青山在来のお豆腐(A)と普通のお豆腐(B)を食べ比べ、本時の課題を作る。

② おがわ青山在来のお豆腐を作っている小川町のお豆腐屋さんに、おいしいお豆腐のみみつを聞く。

学習課題 おがわ青山在来のお豆腐のおいしさのみみつを見つけよう！



「Aはあまいよ！お豆の味がする！」

「おいしい！」



「においちがうよ！」

「どうして味がちがうのかな？」



「この豆がおがわ青山在来のお豆腐で、無農薬です！」

「水道水ではなく、小川町のきれいな地下水を使っています。」

③ 「おがわ青山在来のお豆腐のおいしさのみみつ」を自分の言葉でまとめ、発表する。



「おがわ青山在来のお豆腐は、お豆腐にぴったりだからおいしい！」



「心をこめて作っていることもおいしさのみみつです！」

「小川のおいしいお水もおいしさのみみつでした。」



「おがわ青山在来のお豆腐のみみつがたくさんありました！」

＜児童からでたままとふりがえり＞

ま：お豆腐にぴったりなおがわ青山在来のお豆腐と小川のおいしい水で作られるから、おいしいことがわかりました。

ま：清水さんの「小川町の人に安心安全なお豆腐を食べてもらいたい」思いがおいしさのみみつでした。

ふ：わたしも自分が育てた青山在来のお豆腐が作りたいです。

ふ：家の人も食べてみたいです。

7 研究経過

令和4年度			
月 日	研究内容	場所	対象
4月7日	・研究内容及び研究組織の確認 ・授業時数を弾力化した特別な教育課程実施における全体研修	本校	本校教職員
5月13日	・授業時数を弾力化した特別の教育課程の編成をホームページで保護者・地域等へ広報	本校ホームページ	本校保護者 地域
7月上旬	・第1回アンケート実施、集計	本校	第3～6学年児童 本校教職員 (環境整備部)
7月下旬	・「おがわ学」に関する掲示物作成と掲示	本校	本校教職員 (環境整備部)
7月26日	・他校理論研修(講師招聘)参加 「授業時数特例校制度について」 <講師> 国立教育政策研究所 植田 みどり 様	小川東中学校	本校教職員 3名参加
9月1日	・校内研修 目指す児童像検討ワークショップ 目指す児童像決定 「小川町が大好きな児童」	本校	本校教職員
9月21日	・4年2組公開授業研究会の開催(指導者招聘・町内小中学校教職員への授業公開・研究協議) <指導者> 小川町教育委員会指導主事 横山 大輔 様 <ゲストティーチャー> 小川町役場防災地域支援課 安藤 様、永島 様	本校	本校教職員 町内小中学校教職員 5名参加
10月12日	・理論研修(講師招聘) 「授業時数の弾力化に係るモデル校事業における期待される取組について～総合的な学習の時間から考える～」 <講師> 寄居町立男衾中学校 校長 市川 篤史 様	本校	本校教職員
11月26日	・おがわ学フォーラムでの授業公開 5年1組、5年2組(総合・家庭) 「食べて元気に～小川町みそ汁の実の組み合わせ～」 <ゲストティーチャー> 栄養教諭 加藤 早 様	本校	第5学年保護者 地域 80名参加
12月13日	・「研究推進だより」の作成及び配布 ・ホームページ等での情報発信	本校ホームページ	本校保護者 地域
1月下旬	・第2回アンケート実施、集計	本校	第3～6学年児童 本校教職員 (環境整備部)
3月1日	・校内研修 今年度の振り返りと次年度の確認 ・総合的な学習の時間 単元配列表の整備	本校	本校教職員 (授業研究部)

令和5年度			
4月13日	・研究内容及び研究組織の確認 ・各学年のテーマ決定	本校	本校教職員
5月13日	・おがわ学フォーラム発表者決定	本校	本校教職員
7月26日	・授業時数の弾力化に係るモデル校事業研修(講師招聘) 「探究的な学習について」 <講師> 久喜市立清久小学校 校長 田上 智明 様	本校	本校教職員 東中学校 3名参加
8月11日	・第33回生活科教育研究会全国大会ハイブリット2023 <講師> 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 齋藤 博伸 様 愛知淑徳大学・文部科学省初等中等教育局教育課程 課教科調査官 加藤 智 様	新宿区立 落合第三 小学校	研究主任
10月2日	・3年2組公開授業研究会の開催(指導者招聘・町内小中 学校教職員への授業公開・研究協議) <指導者> 小川町立小川高等学校 教頭 岡本 敏明 様 <ゲストティーチャー> 三代目清水屋 清水 洋治 様	本校	本校教職員 町内小中学校教職 員5名参加
10月18日	・埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会授業研 究会 <授業提案者> 鳩山市立亀井小学校 豊田 淳喜 教諭 <指導者> 淑徳大学教育学部 教授 岡野 雅一 様	鳩山市立 亀井小学 校	研究主任
10月31日	・「授業時数の弾力化に係るモデル校事業」研究発表会 <講演会> 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター (GLOCOM) 主幹研究員・准教授 日本デジタル・シティズンシップ教育研究会 共同代表理事 豊福 晋平 様	久喜市立 久喜小学 校	研究主任

研究授業

○1人1授業・ブロックで分担

・発表・・・ブロック1本 ・ブロック研・・・他(町公開:学校1本)

		全体研	教科	単元名	実施日
低学年	発表	1年 1組 (出石 教諭)	生活	たのしいあき いっぱ い	11/28 (火)
	ブ ロ ッ ク	1年 2組 (嶋田 教諭)	生活	たのしいあき いっぱ い	11/22 (水)
		2年 1組 (田村 教諭)	道徳	見つけたよ	12/7 (木)
		2年 2組 (星 教諭)	道徳	見つけたよ	12/6 (水)

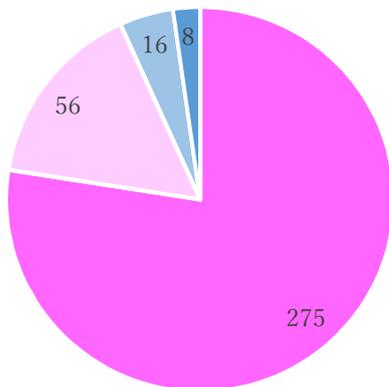
中学年	発表	4年 2組 (宮澤 教諭)	総合	和紙で七夕まつりを 盛り上げ大作戦	11/28 (火)
	ブ ロ ッ ク	4年 1組 (贅田 教諭)	総合	和紙で七夕まつりを 盛り上げ大作戦	11/21 (火)
		3年 1組 (馬場 教諭)	総合	大豆はかせになろう	9/25 (月)
		※3年 2組 (芝本 教諭)	総合	大豆はかせになろう	10/2 (月)
		年 組 (乙川 教諭)	総合	こん虫のかんさつ	9/28 (木)
高学年	発表	5年 1組 (富田 教諭)	総合	地産地消をPRしよう	11/28 (火)
	ブ ロ ッ ク	6年 1組 (太田 教諭)	総合	こんだてを工夫して	12/1 (金)
		6年 2組 (岡本 教諭)	総合	こんだてを工夫して	12/12 (火)
		※5年 2組 (田邊 教諭)	算数	面積の求め方を 考えよう	12/11 (月)
		6年 2組 (村田 教諭)	社会	長く続いた戦争と 人々の暮らし	1/17 (水)
ひばり	ブ ロ ッ ク	1組 (関根 教諭)	図工	和紙を楽しむ	11/2 (木)
		2組 (石黒 教諭)	総合	小川町で育てた野菜を 使ってピザを作ろう	12/13 (木)
		4組 (法月 教諭)	総合	つなげよう！ わたしたちと食	9/12 (火)

8 児童アンケート結果7 アンケート結果 ※単位は「人」

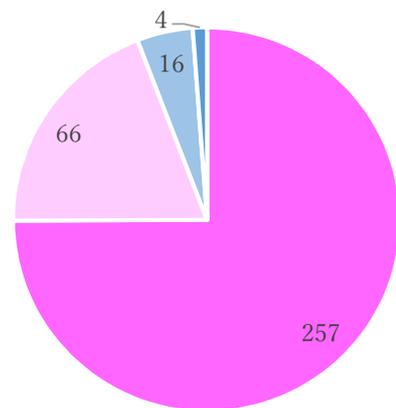
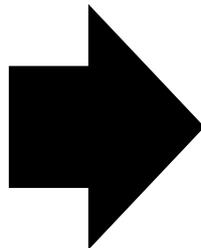
おがわ学に関するアンケートを1学期と2学期に実施し、児童の変容と明らかにした。

(4…そう思う 3…どちらかという、そう思う 2…どちらかという、そう思わない 1…そう思わない)

項目1 小川町が好きだ。

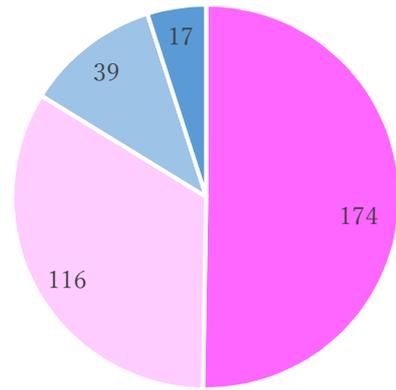
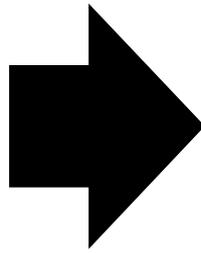
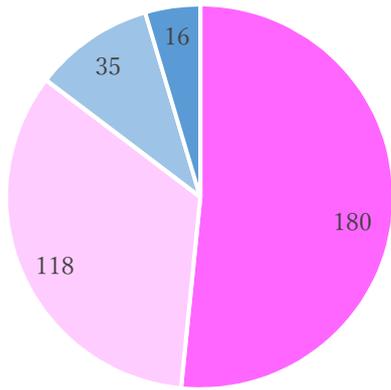


■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1



■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

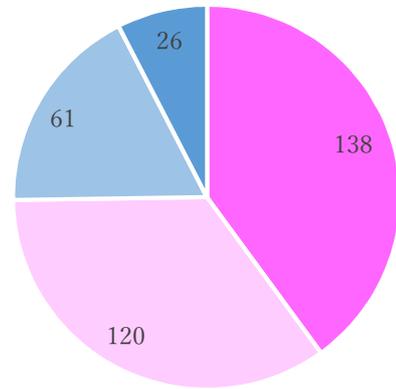
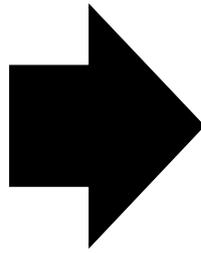
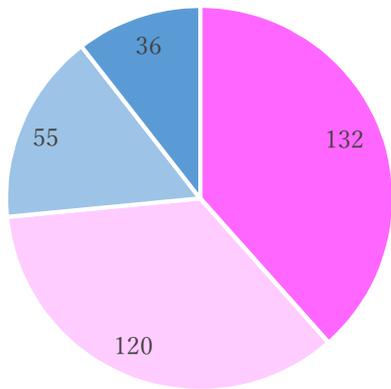
項目2 小川町のことについて知りたい。



■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

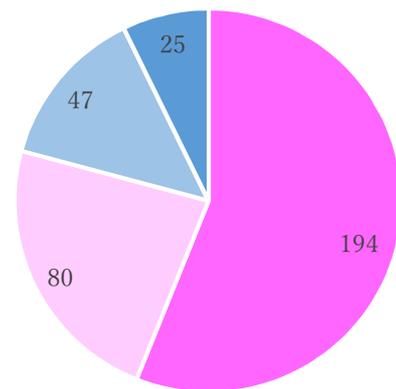
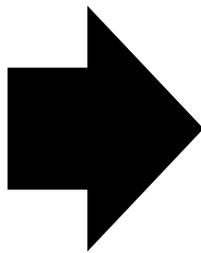
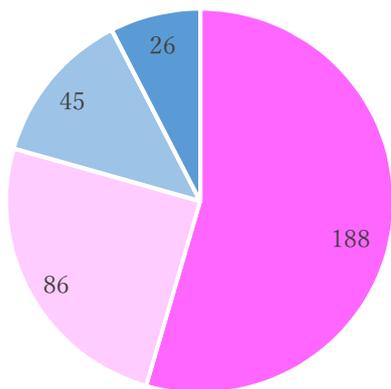
項目3 地域の方に小川町のことについて聞いてみたい。



■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

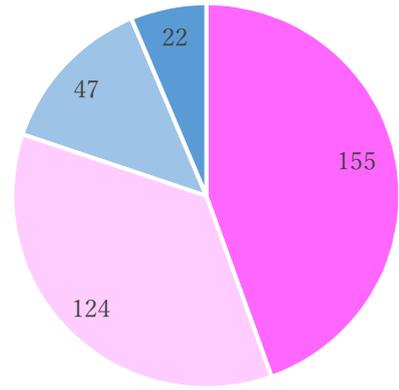
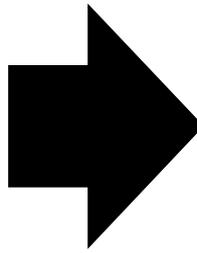
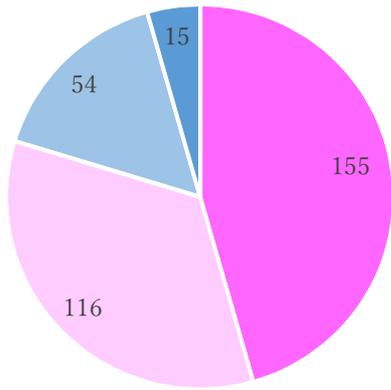
項目4 小川町にずっと住みたい。



■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

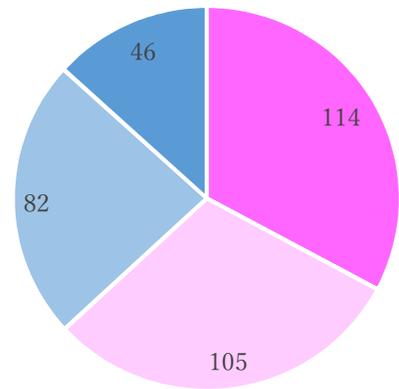
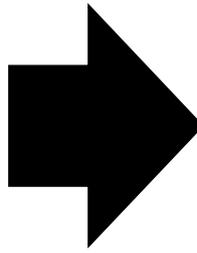
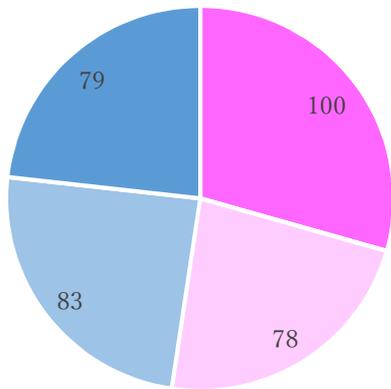
項目 5 疑問に思うことはすぐに調べたい。



■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

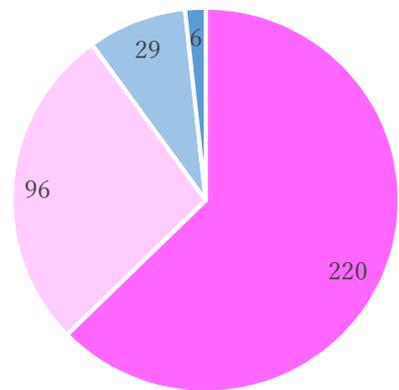
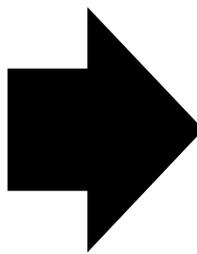
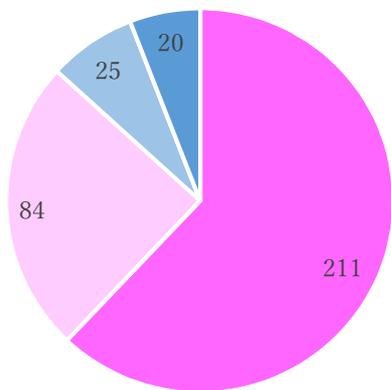
項目 6 調べたことを発表することが得意だ。



■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

項目 7 友達と協力して問題解決する学習が好きだ。



■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

9 成果と課題

(1) 成果

①児童の数値的な変容（アンケート結果より）

- ・項目1では、「4 そう思う」と回答する児童が増加した。
- ・項目2～5では、大きな変容は見られなかったが、1・2学期ともに高い数字を維持している。
- ・項目6、7は、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が大幅に増加している。

②児童の質的な変容（手立ての効果より）

【手立て1】教科横断的な指導の工夫

- ・児童が抱いた興味・関心を、いろいろな場面で探究することができ、児童一人一人の学びが広がった。（項目1～5）
- ・各教科で身に付けた資質・能力を総合的な学習の時間に生かすことができたり、総合的な学習の時間で身に付けた資質・能力を各教科に活かしたりすることができた。（項目6・7）

【手立て2】ゲストティーチャーを活かした指導の工夫

- ・ゲストティーチャーの話で、児童の興味・関心が高まる姿がたくさん見られた。課題把握や課題追究、課題解決など様々な場面におけるゲストティーチャーの学習効果を感じた。（全項目）
- ・自分が住む町の身近なゲストティーチャーの話聞くことで、「小川町にできること」や「自分たちにできること」をイメージしやすかった。具体的なゴールのイメージをもつことで、学習意欲が高まった。（全項目）

【手立て3】課題を自分事としてとらえる地域教材の工夫

- ・本やインターネットの情報だけでなく、実物を見たり、実際に体験したりすることで、課題を自分事として把握し、追究・解決することができた。（項目1～5）
- ・自分たちにできることについて調べたことを発表する場面や友達と協力して問題解決をする場面を多く設定したことで、学習意欲が向上し、発表への自信にもつながった。（項目6、7）

(2) 課題

- ・ゲストティーチャーとの打ち合わせや教材の準備など、担任の負担が非常に大きい。おがわ学コーディネーターと連携し、負担を軽減していきたい。
- ・「おがわ学」の中には、総合的な学習の時間に位置付けることが難しい内容のものもあった。これまでのように教科に位置付けて行っていくか、新たな単元を構想するか、その際の評価をどうするか、など今後は検討していく必要がある。